

# 元.11.1 佐倉市 教育センターだより Vol.49

令和元年11月1日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043(486)2400 [http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/13-6-0-0-0\\_6.html](http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/13-6-0-0-0_6.html)

## 心のつながりを大切に

佐倉市教育センター所長 榎 本 泰 之

今から数年前の話になります。当時担当していた学年の同窓会が、卒業式以来初めて開かれました。そこには、社会人として活躍している者や、会社を辞めて、新たな夢に向かって資格をとるための勉強をしている者など、様々な人生を歩んでいる教え子たちがいました。中にはすっかり変わってしまい、当時の面影とつながらない教え子もいましたが、思い出話をするうちに記憶がよみがえり、あっという間に時間が過ぎていきました。

出席した多くの教え子の中に、当時不登校だった女子生徒がいることに気がつきました。その女子生徒は、中学1年生の夏休み明けから登校渋りが始まり、2学期の途中からほぼ全欠状態になりました。私は2年生からその生徒の担任になりましたが、始業式に出席したきり不登校状態が続き、登校できないまま卒業しました。高校進学後は、どうしているか知らなかつたので、同窓会に出席してくれたことに、驚きと大きな喜びがこみ上げ、当時の記憶が心を駆け巡りました。

同窓会が1時間半ほど経った頃に、彼女が私のところへ挨拶に来てくれました。今は、美容関係の職業に就き、毎日接客をしながら充実した日々を送っているとのことでした。とりとめもない話の中で、当時、なぜ学校に来られなくなつたのか、言葉を選びながら彼女に尋ねると、次のように話してくれました。「部活の友人関係のもつれから、1年生の夏休みから部活を休みがちになり、夏休みの後半には部活に行くことができなくなりました。そんなこともあって、学校にも行きづらくなり、そのまま不登校の状態が続きました。部活は退部しましたが、学校で何か言われるのではないかとすごく不安で、なんとなく登校しづらくて学校に行けませんでした。」と。当時の気持ちを語ってくれたのを聞いて、安堵した気持ちになったのと同時に、担任として彼女にもっとできることがあったのではないかと後悔の念が湧いてきました。

また、このようなものもありました。私は毎週金曜日に家庭訪問をし、彼女と会って何気ない話をしました。しかし、ある金曜日に他の生徒指導が入ったため、連絡もせずに訪問ができませんでした。翌週、家庭訪問をすると、彼女の母親から「先週の金曜日、先生のことをずっと待っていたんですよ。先週の金曜日のことも少し話してあげてもらえますか。」とそっと言わされました。私は、とても恥ずかしい思いをし、何てことをしてしまったのだろうと後悔の念に襲われました。彼女にとって、毎週金曜日は、学校とつながることのできる唯一の時間だったのです。そんな彼女の気持ちを察してあげられなかったことを反省し、彼女に心から謝罪しました。彼女は「大丈夫です。」と笑顔で返してくれ、ほっと胸をなで下ろしたことを覚えています。その後、連絡もせず訪問しないことは一度もありませんでした。そんな経験を思い出し、3時間の同窓会がとても有意義なものとなりました。

帰り際に「当時はありがとうございました。おかげで今頑張っています。」と彼女から明るく感謝の言葉を言われ、同級生たちと仲良く帰宅する姿を見て、とても微笑ましく、感動的な同窓会となりました。

何の原因もなく不登校になる子どもはいません。不登校になった原因は様々ですが、経緯や現状をしっかりと分析し、すみやかにその子どもに合った支援をしていくことがとても重要です。現状を少しずつ紐解き、子どもの心に寄り添いながら粘り強く支援していくことが大切です。即結果に繋がらなくても、支援を継続していくことは、子どもの将来に大きな影響を与えることは間違ひありません。一人を大切にすることは、学校にいる全ての子どもたちを大切にすることに繋がると思います。また、担任の対応が最も大切ですが、学校全体で一人の子どもへの愛情あふれる対応が重要です。教員の役割は非常に大きく、子どもたちの人生を左右する存在であるといつても過言ではありません。そんな子どもたちの将来のために、今後も各学校で、不登校児童生徒への支援を粘り強く行っていただくようお願いいたします。

不登校に関する相談も教育センターに数多く寄せられています。9月末現在まで寄せられた相談は451件です。その都度、各学校や関係機関などと連携しながらの対応をしています。今後も教育センターが少しでも学校にとって身近で、頼りになる存在となるように努めて参りますので、よろしくお願ひいたします。

# 令和元年度 佐倉市教育センター報告会

## 教育相談の充実と関係機関等との連携 ~佐倉教育ビジョンを踏まえて~

この報告では、佐倉教育ビジョンにおいて教育に求められていることと、佐倉市民と児童生徒が、今後の教育において大切だと考えていることについて確認するとともに、多様化・複雑化した課題に対応するための校内や関係機関との連携方法や教育相談活動の重要性について報告をしました。また、佐倉市内にある2つの適応指導教室についての説明や現状報告を行いました。

### ○佐倉市教育センターが関わっている相談業務内容と相談状況

#### 佐倉市教育センターが大きく関わっているもの

##### 教育相談

##### 就学・発達相談



- 心の教育相談員
- 学校教育相談員
- 就学相談
- 電話または来所・訪問相談  
(教育センター・ヤングプラザ)
- 適応指導教室(佐倉・志津)



#### 【平成28年度から平成30年度までの相談状況】

		H28	H29		H30	
発達相談	来所	408	589	375	393	778
	電話	13		312		
	訪問	168		179		
適応指導教室	来室	128	205	124	120	207
	電話	77		73	87	
心の教育相談員		3,005	3,478		3,366	
合計		3,799	4,541		4,351	

多くの児童生徒や保護者が様々な相談機関を活用しています。相談方法も電話や来所など様々です。今後も相談機能を充実させ、児童生徒・保護者とともに考えていきます。

### ○市民と児童生徒が教育について大切だと感じていること

- ①人として正しい判断力・実践力を身につける
- ②他人に対する思いやりのある人を育てる

そのために学校や学年・学級でできることは、良いことと悪いことをちゃんと伝えることや相手の立場に立って考え、相手の気持ちを大事にして行動するようにしていくことです。

#### 「良いこと」と「悪いこと」をきちんと伝える

##### いじめは「だめ」

##### みんなわかっている



- 【いじめに該当する内容例】※佐倉市いじめ防止基本方針より
- 無視や仲間外れのような、心理的なもの
  - 暴力(殴る、蹴る行為・ふざけるふりをして軽くたたいたり小突いたりする)
  - 悪口(からかい・冷やかし・脅しなど「いやだ」と感じることを言われる)
  - 強要(危険なことや恥ずかしいことなどを、無理に強いられる)
  - 金品の要求等(お金や物品を奪われる、隠される、壊される)
  - インターネット等を利用した、いじめメールやSNSなどを使い悪口を書かれたり、画像や個人情報を本人の許可なく無断で掲載されたりする

#### 相手の立場に立って考え、相手の気持ちを大事にして行動する

- 相手が困っていたら、手助けをする・声をかける。
- 落ちた物を拾って、渡す。
- 自分が言われて嫌なことは言わない。
- 会ったら、お互い笑顔であいさつをする。
- 笑顔で、声をかける。
- 発言・行動する前に、相手がどう思うかを考える。
- 「ありがとう」と感謝の気持ちを言葉にする。



一人でも多くの児童生徒が相手のことを考えて行動できるようになると学校・学級の雰囲気は変わっていきます

### ○複雑化・多様化した課題に対して、学校がチームとして動くことや各機関が連携していくことが重要

#### 学校



- 教育活動全体を通して、誰もが安心して生活できる学校体制を整える。
- 速やかに解決できるよう保護者、地域や関係機関と連携し、情報を共有する。
- 児童生徒の実態把握に努める。

#### 地域・関係機関

#### 地域・関係機関



- 生きる上での基礎的な資質や能力を育てる。
- 価値やルールを教える。
- 日頃から子どもの様子をよく見て、異変に気づいたら学校などに相談する。
- 日常的な状況把握と指導に努める。



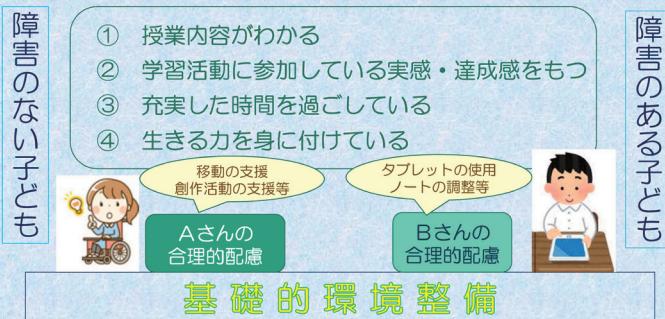
#### 家庭

学校・家庭・地域や関係機関等がそれぞれの役割を果たし、それらをうまくつなげながら、チームワークを大切にして児童生徒を支えていくことで、児童生徒のより良い成長をサポートしていきます。

# インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の取組

障害のある人もない人も、その能力に応じた適切な教育を提供する

平成24年 中教審初等中等教育分科会報告



佐倉市でも、幼稚園で15%、小学校で4.4%、中学校で3.3%の割合で通常の学級の児童生徒に対して特別な教育的ニーズを感じているとの調査が上がっています。また、右図のように多様な場面、多様な内容の支援が必要であるととらえられています。そこでインクルーシブ教育システム構築のために、以下の2点を提案しました。

## インクルーシブ教育システム構築のためにできること

### ①授業のユニバーサルデザイン化



授業のユニバーサルデザイン化とは、通常の学級でどの子に対しても学びの保障をするために、障害の有無に関わらず、全ての子どもが楽しく学び合い、『わかる・できる』授業づくりのことをさします。

その上で、特別支援教育の視点で、個々に必要な合理的配慮を行っていきます。集団に対する工夫と個々への配慮を併せてすることで、どの子も参加する喜び、充実感、達成感を感じることができると考えます。

## まとめ

### インクルーシブ教育システムを構築するために

#### 基礎的環境整備

授業のユニバーサルデザイン化

特別支援教育支援員の配置

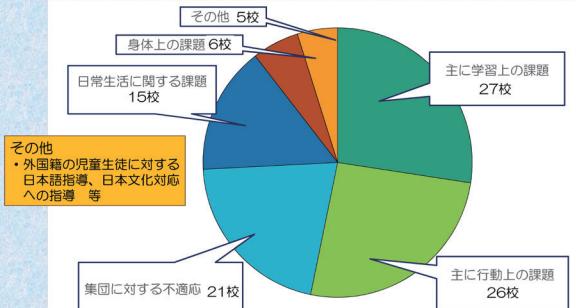
#### 合理的配慮

特別支援教育の視点による配慮

個別の教育支援計画  
個別の指導計画

「インクルーシブ教育システム」は、中央教育審議会初等中等教育分科会「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」によると、基礎的環境整備は全ての児童生徒にとって充実した園及び学校生活を送るうえで大切な土台となっています。その中で、障害のある子どもたちの実態に応じた合理的配慮を提供するために、基礎的環境整備が非常に重要であると述べられています。

### 「特別な教育的ニーズ」の内容



### ②特別支援教育支援員の配置

佐倉市内の幼稚園、小中学校には52名の支援員が配置されており、学習支援、行動上の課題への対応、交流学級への同行等、学校の体制や児童生徒の実態、ニーズに応じて様々な支援を行っています。

#### 佐倉市立小竹小学校 杉本顕夫先生のお話

杉本先生より、小竹小の研究についてご紹介いただきました。「どの子も生き生きと学ぶ教育の場づくり、インクルーシブ教育システムの視点による学びの充実」をテーマに、授業の中で様々な工夫を凝らし、児童の変容についてお話をくださいました。

インクルーシブ教育システムの構築を図るためにには、基礎的環境整備として授業のユニバーサルデザイン化を試みたり、支援員の活用の仕方を工夫したりすることが大切となります。さらに、共に学習や生活をしていくために一人一人に合った合理的配慮を行うことが大切です。個別の配慮を共有するためには個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成、活用が求められます。様々な取組が進み、全ての子どもたちが互いに認め合い、共生できるような社会が期待されます。

# 全国学力・学習状況調査と佐倉市学習状況調査の分析と授業への活用

全国学力・学習状況調査や佐倉市学習状況調査の分析から、授業への活用について報告しました。調査問題にはどのような問題が出題されているのかを知つてもらうために、児童生徒が苦手としていた問題を中心に、報告会に参加していただいた先生方にも問題を解いてもらいました。実際に問題に挑戦することで、子どもたちの苦手としているポイントを把握することができ、日ごろの授業では、ポイントを意識した指導ができると思います。全国学力・学習状況調査を行う学年だけでなく、他の学年でも使える、調査問題を使った授業のアイディアが載っている授業アイディア例の紹介もしました。各学校に配付されていますので、ご覧になってください。また、学力向上に役立つ資料の紹介なども行いました。参考にしていただけたらと思います。

左側の図は「平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例 中学校」で、右側の図は「平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例 小学校」です。両方とも、学習目標や課題、実践的な授業アイディアが示されています。右側の図には、「学力向上に役立つ情報」と題された欄があり、過去の授業アイディア例とその活用法が紹介されています。さらに、「ちばっこチャレンジ100」のポスターが掲載されており、千葉県教育委員会より公開されている学習プリントについても説明されています。

## 教育相談基礎講座～様々な問題解決に向けた指導力の育成～

教育センターでは、教育相談の理論と技法を実践的に学ぶことを通じて、カウンセリングの基礎を身につけ、児童生徒のもつさまざまな問題の解決に向けて指導力の向上を図ることを目的に、教育相談基礎講座を開講しています。今年度も多くの方々が参加され、熱心に講義や演習に取り組んでいました。

### 今年度の講座内容（8月1日・2日・22日実施）

#### 講座①「教育相談の理解と実際」

千葉大学 特命教授

滝本 信行 先生

#### 講座②「構成的グループエンカウンターの理論と実践」

佐倉市学校支援アドバイザー

山本 昌弘 先生

#### 講座③「問題行動や不登校児童生徒の理解と対応」

千葉県子どもと親のサポートセンター

不登校対策支援チーム

#### 講座④「インシデントプロセスによる事例研究」

佐倉市立根郷中学校

大越 秀行 先生

#### 講座⑤「見え方に課題のある子どもへの対応について」

千葉県立千葉盲学校

大田 有美 先生

#### 講座⑥「ミニ・カウンセリングの理論と実践」

元佐倉市立臼井小学校長

上田 千佳 先生

杉本 勉 先生

研修会の様子から

### ＜受講生の声～研修成果報告書より＞

- 講座を通して、児童の変化に気づける目、児童の声を聴く耳をもつことが教師として重要だと感じた。
- 「手がかかることをする」とは、その子を知るチャンスを与えてくれているという言葉が印象的でした。何かトラブルが起ったとき、しっかり受容し対応していきたい。
- 学校現場だけでなく、専門機関の役割や機能について話を聞き、具体的な連携や活用について確認することができた。
- 教師の影響力の大きさを感じた。演習を通して、聴き方の大ささを実感することができた。

